

特集

長崎から、広げる。

— 核兵器廃絶へのアクション —



世界的に増加傾向にある核弾頭

現在、地球上に存在する核弾頭※の総数は1万2,120発です。これは昨年より400発少なくなっています。1987年のピーク時は7万発近くが存在しましたが、アメリカとロシアの条約によって大幅に減少しました。しかし、一方で実質的な核軍拡は進んでいます。「現役核弾頭」の数(下図)は2018年以降、明らかな増加傾向にあります。

※核弾頭：核兵器の核爆発を起こす部分。一般的には核弾頭とそれを搭載するミサイルなどを組み合わせたものを核兵器と呼ぶ。

現役核弾頭数の推移(2018~24年)



現役核弾頭数(2024年)

ロシア	4380
米国	3708
中国	500
フランス	290
英国	225
パキスタン	170
インド	170
イスラエル	90
北朝鮮	50
計	9583

出典：RECNA(2024年)世界の核弾頭データ

核兵器の脅威に終止符を

ウクライナ情勢や中東情勢など、緊迫する国際情勢の中で、核兵器への依存を強める動きが加速し、核軍拡競争が進んでいます。

79年前の8月9日、一発の原子爆弾により、長崎のまちは焼野原と化し、同年12月末までに7万4千人もの尊い命が犠牲になりました。辛うじて生き延びた人たちは心と体に深い傷を負い、今もなお放射線の後障害に苦しんでいます。

被爆者は「世界中の誰にも、二度と同じ体験をさせてはなら

ない」と自らの体験を伝え、核兵器廃絶を訴えてきましたが、「被爆者のいる時代の終わり」そして「被爆者のいない時代の始まり」が刻一刻と近づいています。

長崎はこれからも最後の被爆地であり続けることができるのでしょうか。

今回の特集では、被爆者に自身の体験や願い、一人ひとりができることをお聞きしました。そして、核兵器廃絶をさまざまな手段で訴え続けている若者の取り組みを紹介します。

ここにしかない被爆者の声

全国の被爆者は現在 10 万 6,825 人、平均年齢は 85 歳を超えました。年々減少していて、被爆者の声をどう後世に伝えていくかが課題となっています。今回は被爆者に自身の体験を踏まえた核兵器廃絶に対する思いをお聞きました。

かずみ 山田一美さん (90)

現在、小中学生や修学旅行生のもとへ出向いて原爆や自身の体験について話す活動をしている。2017 年にはドイツを訪れ、現地の学生に被爆体験講話を実施。「今年で 91 歳。身体がきついときもあるが、可能な限り活動を続け、声を届けたい」と語る。



一瞬で世界が変わった

私は当時、爆心地から 2.3 km の昭和町にいましたが、偶然大きな岩陰にいたため、怪我はありませんでした。しかし、熱線の熱さに耐えた後、顔を上げると世界は一変していました。燃えさかる家、泣き叫ぶ子供たち、道を狂い回る牛。着ていたシャツに火が付き、燃えだしている人たち。私はパニックになり、頭の中は真っ白で何も考えられず、ただひたすら逃げ惑うだけでした。「坊や、このかたきは絶対討ってくれよ」と私に叫んで通り過ぎた人の目玉が飛び出していたのは、今でも忘れられません。

私は多くの偶然に恵まれて生き延びた存在です。原爆で亡くなった友人たちから「お前は生き残って原爆の体験を伝えろ」と言われている気がします。生き残った者として、平和の大切さを伝える使命を日々感じています。

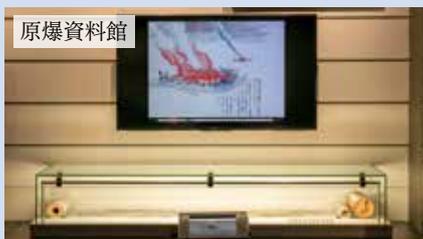
もう二度と

核兵器は使わないで

現在の世界情勢は戦争前の日本と驚くほど似ていて、戦争が再び始まるのではないかという危機感があります。「戦争放棄、核兵器廃絶」のメッセージを引き続き届けたいです。

私にとって戦争がないだけで平和です。戦時中は我慢の連続で思い通りの生活をする事ができませんでした。今の時代は、思うことを自由に表現することも、夢を追いかけることもできる。何をしてもよく、何を言っても良い、そんな現代の子供たちは恵まれていてうらやましく思います。

みんな一人ひとりに特徴があつて長所があると思います。自分にしかできないことに、核兵器廃絶の思いを持って取り組んでほしいです。



原爆資料館

8月9日の爆心地の様子を鮮明に描いている絵巻「崎陽のあらし」。タッチパネルで閲覧できます。



追悼平和祈念館

被爆者直筆の手記をまとめた「被爆体験集集」。当時の状況を詳しく知ることができます。



被爆の実相に
ふれるなら

Peace Education Lab

長崎に住む若い世代の人材育成と、長崎を訪れるかた向けの平和の体験学習に取り組んでいる、一般社団法人 Peace Education Lab Nagasaki。核兵器のない平和な世界をつくる「Peace Maker（平和をつくる人）」を育むために、長崎の地域性を生かした平和学習プログラムを提供しています。



▲ピースアカデミーの様子

多様な価値観にふれるピースアカデミー

アカデミー参加者は起業家やフォトジャーナリスト、アーティストなどの講師の講義を受け、「自分を知り、世界を変える」を合言葉に3カ月間学びを深めます。卒業時には社会を変えるためのオリジナルのマイプロジェクトを企画。卒業後はそれを実現するためのサポートを受けることができ、「Peace Maker（平和をつくる人）」としての一步を踏み出します。

旅行者の価値観を変える学習体験の提供

長崎の若者が観光客へ平和公園周辺の案内をする体験プログラム「Peace Park Tour」。被爆前の暮らしや、原爆による被害の特殊性、平和の発信拠点となった現在の長崎の様子を、長崎の若者が自分の思いを胸に案内します。「たった一人との出逢いで、人生は変わる」という思いが込められたこのプロジェクト。案内する若者自身もたくさんの出会いを経験して自分の活動の幅を広げることができます。

また、「平和の広告ワーク」では社会課題に興味を持ってもらうために、広告のプロが「伝える」ための視点や技術を教えます。オリジナルのキャッチコピーを作成することで学んだことを、家族や学校の人たちによりわかりやすく伝えることができます。



Peace Education Lab Nagasaki 代表の林田さん

担う若い世代の取り組み



▲平和の広告ワーク
効果的な「伝え方」を学べる



▲ Peace Park Tour
対話しながら案内していく

他にもさまざまな団体が活動中



青少年ピースボランティア

15歳以上30歳未満なら誰でも参加できます。青少年が平和を学び、出前講座や平和関連イベントでのボランティアに取り組んでいます。



国際奉仕団体

長崎キワニスクラブ

「子どものために」を目的に活動しているボランティア団体。そこで活躍する若者を、8ページの「発見！トライ人」で詳しく紹介しています。

ナガサキ・ユース代表団

長崎大学・県・市で構成された「核兵器廃絶長崎連絡協議会」の人材育成プロジェクト。NPT再検討会議をはじめとする国際会議に、県内の大学生などを派遣しています。学生たちは核軍縮・不拡散のことを最前線で学び、その分野で活躍する方々と世界各地で交流。現在まで延べ101人が参加しました。



▲今年活動する第12期生（勉強会の様子）

思いのままに平和のアクションを

ナガサキ・ユース代表団は長崎県内の大学生や同年代の若者から募集し、選考されます。核兵器問題に関心があり、日本語や英語で一定のコミュニケーションが取れることが必須です。任命後は勉強会を何度も開き、核問題の基礎から最新情勢、長崎の被爆の実相やその背景について幅広く学びます。全体での活動の他にも、一人ひとりが自分の興味や目標に沿ってオリジナルの平和の活動プランを立てて、実行できることが醍醐味です。

平和を創る若者のリーダーとして

今年活動するのは第12期生。7月22日から26日の間、スイスのジュネーブで「2026年NPT再検討会議第2回準備委員会」の会議を傍聴し、サイドイベントの開催などの活動を行いました。そこでは、国際機関やNGO、政府関係者と交流し、世界のリーダーが今の世界情勢をどう捉えているのかを直接学ぶことができました。

また、7月から全国の小中学生への出前講座も実施。活動の中で得た知識や思ったことを積極的に発信し、平和を創るリーダーとして活躍していきます。



第12期生 副代表の平林さん（左）と代表の江川さん（右）

長崎から世界へ 未来を



▲10期生の皆さん
国連本部（ニューヨーク）



▲11期生の皆さん
国際連合（ウィーン）

核兵器のない世界の実現に向けて、被爆者をはじめ若い世代もさまざまなことに取り組んでいます。一方、昨今の世界情勢のなかで「核兵器の使用をタブー視する風潮」がどんどん弱まっていることに、被爆地は危機感を強めています。

核兵器が使われたら人間に何が起こるのか、想像してください。

まずは自分にできることから。被爆の実相を知って周りの人に伝えることから始めてみませんか。

長崎を世界で最後の被爆地にするために。